

台湾 © 徐芹庭 著

易經源流

中国易经学史

上册

中國書局

上册

易經源流

—中国易经学史

台湾 © 徐芹庭 著

中國書局

图书在版编目 (CIP) 数据

易经源流：中国易经史（上下）/徐芹庭著. —北京：
中国书店，2008.4

ISBN 978 - 7 - 80663 - 481 - 3

I. 易… II. 徐… III. 周易 - 研究 IV. B221.5

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 176057 号

易经源流——中国易经史（上下）

徐芹庭 著

责任编辑：汤慧芸 宋莹

出版：中国书店

地址：北京市宣武区琉璃厂东街 115 号

邮编：100050

发行：全国新华书店经销

印刷：北京泰山兴业印刷有限公司

开本：880×1230 1/32

版次：2008 年 4 月第 1 版 2008 年 4 月第 1 次印刷

字数：573 千字

印张：33.75

书号：ISBN 978 - 7 - 80663 - 481 - 3/B. 131

定价：66.00 元

本版书凡印装质量不合格者由本社调换，
当地新华书店售缺者可由本社邮购。

序 言

自考古学家、人类学家、古生物学家、地质学家，对地质与地下挖掘之人类化石之研究，经科学之证明，已证实人类历史，实在始于距今五十万年至一百万年之近生代（依生物学推定生物出现年代分为太古代、次古代。古生代——相当于地质年代之寒武纪，距今五亿年前；中生代——地质学年代为距今一亿五千万年前之三叠纪；新生代即第三纪——地质年代为六千万年前之始新统；至第四纪为近生代——更新统）。人类已在使用石器，为旧石器时代的开始。从民国八年起有澳人师丹斯基（Dr. O. Zdansky），法人德日进（Père Teilhard de chardin）、李仙（Père Licent），瑞典人安特生（J. G. Anderson）……与吾国裴文中、杨钟健、刘长山、朱庭祐、李济……等在吾国各地挖掘出大量之人类化石、石器、骨器、陶器。经研究证实，中国境内最早使用石器之云南元谋盆地上那蚌村之“元谋人”，为距今一百七十万年前之猿人，可能有用火之痕迹，其石器接近于北京人。其次则为在北平西南房山县属之周口店发现之“北京猿人”（*Sinanthropus Pekinensis*），生存于更新统之初期，在距今四、五十万年前，已知用火、狩猎、制造石器、祭拜。袁德星先生（见《民主史观论丛——从艺术创新看民生史观》）以为即是中国文化之薪传，燧人氏时代。而英国人李约瑟在所著《中国之科学与文明》更明白指出“北京猿人”，经魏登瑞（Weidenreich）做彻底研究之后，证明北京人生存在更新统（Pleistocene）初期或中期，可以确知中国在旧石器时代已有人口，能制粗石器工具，顾里雅认为旧日学者有些企图证明中国文明，系自稍晚之外国播迁，实在没有根据。魏登瑞已提出定论谓中国人之解剖特质，均可在北京猿人之骨骼上找寻出来。（见《中国之科学与文明》第一册译本一五一至一五二页，及本书“易学滥觞”画前之

2 易经源流

易燧人氏时代所引。)由斯种种吾人可以确知中国文化之始祖为距今四、五十万年前之北京猿人——燧人氏时代。从彼等之能用火，能制工具，群居祭拜祖先，已燃起中国文化之薪传——敬祖祭祖善发明创作，敬老慈幼，有浓厚之儒家伦理思想。

最近在新疆楼兰古城挖掘出距今六千四百七十年前之贵妇人木乃伊（《联合报》载），至今其部份肌肉，仍具有弹性，身体以毛毡与皮革包着，躺在充满砂子之墓穴中。吾人如从四五十万年前能用火，狩猎祭祖之北京人之文化薪传，而推展至六千四百年前，约当伏羲氏画八卦。女娲定男女婚姻——脍炙为礼之时代，则楼兰古城人能用皮革、毛毡，亦属当然之理。如是而再推《史记》所述黄帝之“修德振兵、治五气、艺五种、抚万民、度四方、获宝鼎、迎日推策、顺天地之纪、幽明之占，旁罗日月星辰水波”以及《尚书·尧典》叙述“尧命羲和从二至二分——冬至、夏至、春分、秋分点，据廿八星宿，推定一年十二月，廿四节气”之事，必然有据。再推至汉易卦气卦候之学，为当然之结果。吾人从所挖掘之商代青铜器已至极纯熟之铜器合金时代，与甲骨文，乃至周原、殷址、数字卦画之发现，不但可证《史记》所记为信史，而上推吾国铜器时代之初期，当在伏羲以前，石器时代之末期——有石器与粗铜器之挖掘物可证。由山西侯马盟书之发现，可以旁证《左传》所记春秋时代，晋国之历史为真实，而最近从事此项挖掘与研究之工作，正方兴未已，益足证实中国古史所记多为信史也。

古史之可信也，如齐太史之简，不屈于崔杼之残杀，兄弟相继以死，犹维正史之正义，且有南史氏亦原继之；晋董狐之笔，正义凛然，不惧于赵盾之权势。此古史之所以为信史也。《史记》为吾国正史由司马迁《史记》之自序，知其远祖自颛顼以来，世袭司天地之官；当周宣王时，世典周史；至汉武帝时父子仍然世袭太史公之职务，管理遗文古籍史料毕集之汉帝国中央政府图书馆，其图书包括秦帝国累世所积之图书资料——《史记》载刘邦入关，萧何尽取秦丞相、御史律令图书藏之。可证其史料之丰富，尽得往古

以来之资料。而史公又生于去古未远之汉初；复饱读公私藏书；遍拜名师，博识旧闻；既累积千古以来之史书与经验，又经自己理性之思惟，更有足迹遍天下之经历，由是而据古史作《史记》，此由思维撰述过程可以推知《史记》必为信史者也。复由地下所挖掘之商代甲骨文史料，多可与《史记》相印证，亦可旁证《史记》之为信史也。如《史记》之正史，而不可信，尚复何信？近人之疑古者、斩史者胡猜瞎想，既乏事实之根据，又无理性之思维，复乏经验之后盾，一味乱说，如此而可信孰者不可信？吾人既可确信《史记》为信史，由《史记》自序，十二诸侯年表序，与其报任少卿书，亦可以推知其所述孔子之作《春秋》，左丘明之作《春秋左氏传》，亦为信史。由《春秋》与《春秋左氏传》所述伏羲氏时之官职，与其后世子孙任、宿、须句、颛臾（孔氏正义诸任姓之国——谢、章、薛、舒、吕、视、终、泉、毕、过十国。）之为诸侯之事，可以确信伏羲氏确有其人，而其子孙十三姓遍天下，因而推知《系辞》所论伏羲氏之王天下，画八卦一章，可信也明矣。且伏羲氏时代，距今不够六千四百多年前，吾国自四、五十万年前之北京人已能用火，善群居，祭拜祖先，发明石器，已如前述，而所挖掘楼兰古城之贵妇人，与伏羲氏年代相近，其文明已如是之宏伟，而石器时代石器、陶器、骨器图案之美妙，刻划之似八卦符号，卜骨之出现，则推至伏羲氏之发明八卦，王天下，想《易经》与古籍所载，亦当然可信之事。如是吾人《易学源流》，可以推至伏羲氏与伏羲氏画卦之前始，当亦离事实不远。孔子曰：“述而不作，信而好古，窃比于我老彭。”诚哉斯言也。

文化与学术，如长江大河之源源不绝，皆经长久之蕴酿，迨时节因缘成熟，乃由圣哲之士，创成一种学术与文化，于易也亦复如是。经伏羲之画卦，《连山》《归藏》与卜辞之长久为人类所沿用，于是方有《周易》之产生（周原出土之象数易卦在《周易》之前，可证。）。《史记》《汉书》皆吾国信史。所记文王孔子作易赞易之事，亦为可信。今人之以孔子与易无关者，因误读释文，疏于声韵

训诂之学以讹传讹所致，此本文已有驳斥。张心澄《伪书通考》亦已尽斥其非。（见《伪书通考·易部》，与本文周代易学中。）

盖尝试论之曰：知识之来源有二，一曰经验，一曰推理。西哲之论知识者，亦分经验与理性二派。二者原不可偏废。经验者切身所亲见，亲身所履历而获得之所识也。推进者以自己理性之思维，推论而得者也。如由吾身之存在，推至吾父、吾祖、吾曾祖、吾远祖悉皆曾经存在。人类有此能力，故能日新月异，创造高度之文明与科技。先民之经验与知识，代代相传，吾人虽未亲见，然已成吾人之知识，与历史之史料，推理可知。且由考古学，古生物学，人类学，及从地下挖掘物经科学分析之旁证中，亦可推知其正确。职是之故，吾人由此可获知千年万年以前之学术与文化，乃至以后之文化，亦可推知。故孔子曰：“殷因于夏礼，所损益可知也；周因于殷礼，所损益可知也；其后继周者，虽百世可知也。”又曰：“学而不思则罔，思而不学则殆。”盖学思并重，推理与经验兼顾。乃吾人求知不二之法门。亦本篇撰述论文之方法。

自汉儒传经，易道以明。下历魏晋南北朝、隋、唐、五代、宋、元、明、清迄于今时，代有增演，故有各代之易学。而图书之资料，易学之别传，亦踵事增华，递有传述。本文由是于各章一一阐述之。复作导论于前并述《易经》形成之过程，与历代易学之风尚、渊源、流变派别与要旨。以导夫先路。

目 录

上 册

序言	(1)
一、易学源流导论	(1)
(一)《易经》与宇宙之形成说	(1)
(二)易与宇宙之本体——太极	(4)
(三)易与宇宙之二分法——两仪之形成	(7)
(四)易与宇宙之四分法——四象之形成	(10)
(五)易之宇宙论——八卦	(12)
(六)宇宙人生发展变化之现象与法则——六十四卦	(20)
(七)六十四卦之组成——重卦之方法	(23)
(八)卦辞之形成	(36)
(九)爻辞之制成与爻位之律则	(43)
(十)彖辞象辞之形成	(50)
(十一)《说卦》《序卦》《杂卦》《文言》《系辞》 之形成	(55)
(十二)易学形成之异说	(57)
(十三)易学之派别与流变	(60)
(十四)易学之要旨与其启示	(76)
二、易学滥觞	(85)
(一)燧人氏画前之易	(86)
(二)伏羲氏之画卦	(94)
(三)神农氏之易	(103)

2 易经源流

(四) 黄帝之易	(106)
(五) 尧舜之易	(111)
(六) 夏代之易	(113)
(七) 商代之易	(119)
三、《周易》之完成与周代之易学	(132)
(一) 《周易》卦爻辞完成于西周	(132)
(二) 周代兼用卜筮，西周卜重于筮，东周筮重于卜 ..	(135)
(三) 《周易》理气象数之精义发挥于春秋时代	(137)
(四) 《十翼》之先河	(145)
(五) 孔子与《十翼》	(149)
(六) 孔子弟子之易学	(182)
(七) 子思之易学	(187)
(八) 孟子之易学	(189)
(九) 荀子之易学	(190)
(十) 孔子再传弟子以后之易学	(192)
(十一) 管子之易学	(196)
(十二) 老子之易学	(198)
(十三) 庄子之易学	(200)
(十四) 《吕氏春秋》之易学	(203)
(十五) 其余各家之易学	(204)
四、西汉——易学之黄金时代	(210)
(一) 吾国学术之黑暗时代——秦代之焚书	(210)
(二) 西汉易学之渊源	(211)
(三) 西汉为吾国易学之黄金时代	(215)
(四) 西汉易学之传授	(219)
(五) 西汉易学之书目与著作	(225)
(六) 施孟梁丘三家之异同	(229)
(七) 平实之施氏易	(232)
(八) 兼象数与卦气之孟氏易	(234)

(九) 荣显之梁丘易	(249)
(十) 汉熹平《周易石经》即梁丘易	(251)
(十一) 明灾异卦候之焦氏易	(258)
(十二) 集灾异卦气卦候大成之京氏易	(259)
(十三) 博杂之费氏易	(292)
(十四) 专说灾厄之《周易古五子传》	(301)
(十五) 解易玄妙之《淮南九师道训》	(310)
(十六) 别树一坛之《子夏易传》	(312)
(十七) 与《子夏易传》近似之《薛虞记》	(316)
(十八) 西汉时引《易》以证人事者	(318)
(十九) 伏万寿《周易集林》能占风雨	(320)
(二十) 《易林》——四千零九十六卦	(321)
(二十一) 西汉马王堆帛书断片之研究	(322)
五、兼容并蓄之东汉易学	(324)
(一) 皇室重视易学	(324)
(二) 东汉易学之源流与传承	(325)
(三) 东汉所见易学书目与历代之存佚	(333)
(四) 南宋以后汉易之辑佚及今存之版本	(335)
(五) 黄宪以机变论《易》	(337)
(六) 崔篆《易林》因袭先儒	(338)
(七) 许峻善占卜术	(338)
(八) 马融承先启后	(339)
(九) 郑玄集《易》古今文之大成	(340)
(十) 荀爽寓易学于匡世济民	(361)
(十一) 刘表易学肇王弼易注之先河	(372)
(十二) 宋衷之易学	(374)
(十三) 虞翻集两汉易学之大成	(376)
(十四) 理气象数兼备之陆绩易学	(390)
(十五) 杨震祖孙三代皆精京氏易	(393)

(十六) 王充之易学——以人事与黄老之自然解 《易》	(394)
(十七) 崇本务实之王符易学	(396)
(十八) 明京氏灾异之郎顛、鲁恭易说	(396)
(十九) 蔡邕之易学——兼及孟、京与梁丘易	(397)
(二十) 徐干中论——以儒学释《易》	(398)
(二十一) 其他引《易》说《易》者	(399)
六、玄理象数之分界——三国之易学	(401)
(一) 魏少帝与易博士淳于俊之问对	(401)
(二) 汉贼与易学	(403)
(三) 刘备与《易》	(404)
(四) 三国之易学源流著述	(404)
(五) 精通占筮之管辂易学	(407)
(六) 象数兼备之姚信周易注	(409)
(七) 千古疑案——王朗、王肃之易学	(409)
(八) 融通象数之董遇章句	(411)
(九) 清谈为主之何晏易学	(411)
(十) 玄学解《易》之宗师——王弼	(412)
(十一) 阮籍之《通易论》	(420)
(十二) 玄学与《易》	(424)
(十三) 结论	(425)
七、重视清谈玄理之两晋易学	(426)
(一) 晋易之清谈与汉易之传授	(426)
(二) 清谈解《易》之反响	(428)
(三) 竹简书	(429)
(四) 两晋之易学著作	(431)
(五) 今存之两晋易学著作及版本	(433)
(六) 郭璞易学妙于阴阳算历	(434)
(七) 蜀才易注精于象数诂训	(435)

(八) 翟元易注归宗于荀爽	(436)
(九) 向秀易注务人事之日用	(436)
(十) 张璠《集解》偏重玄学	(437)
(十一) 干宝易注留思于京房	(437)
(十二) 王虞易注巧于文辞偏于玄言	(438)
(十三) 徐邈、李轨标示易音	(439)
(十四) 黄颖易注归宗郑玄	(439)
(十五) 桓玄系辞注唯余三条	(440)
(十六) 韩康伯补足王弼未竟之业	(440)
(十七) 孙盛以为易象妙于见形	(443)
(十八) 偏重象数之荀爽九家注	(445)
(十九) 玄学与《易》	(454)
(二十) 两晋易学源流结论	(454)
八、南北朝之易学	(455)
(一) 君王重视易学	(455)
(二) 以易学课试诸生	(457)
(三) 南朝宗王弼之易学而偏尚玄学	(458)
(四) 郑氏易偶行于南朝	(460)
(五) 北朝盛行郑玄之学	(461)
(六) 南北朝之易学著作	(463)
(七) 现存南北朝易学著作之辑佚本	(467)
(八) 荀明顾卞四家专注《系辞》	(468)
(九) 义疏、讲疏为唐代《周易正义》之滥觞	(470)
(十) 其余有辑本存世之各家	(475)
(十一) 萧衍与以佛理解《易》之易家	(479)
(十二) 卫元嵩之《元包》	(481)
(十三) 梁元帝精研易道	(483)
(十四) 关朗《易传》为伪书	(484)
(十五) 南北朝易学结论	(484)

九、隋唐五代之易学	(485)
(一) 隋代易学承先启后	(485)
(二) 隋唐君王重视易学	(491)
(三) 唐代易学专崇王、韩易注与孔颖达《正义》	(493)
(四) 唐代研精易学者多，汉易亦间行焉	(495)
(五) 唐代以《易》为文者	(498)
(六) 历代至唐之易学书目	(504)
(七) 现存隋唐易学之书目	(510)
(八) 五代易学寡闻	(511)
(九) 何妥《周易讲疏》折中汉魏	(512)
(十) 陆德明集往古音义之大成	(513)
(十一) 何氏、萧氏有六象四象之说	(517)
(十二) 王通赞易道之幽深	(517)
(十三) 孔颖达等撰《周易正义》为时所宗	(518)
(十四) 魏征《治要》多宗王弼	(522)
(十五) 邢璣专崇王弼之《略例》	(523)
(十六) 史征《周易口诀义》提炼孔疏	(524)
(十七) 郭京举正王、韩易注之误字	(525)
(十八) 李鼎祚《集解》归宗象数	(527)
(十九) 东乡助《周易释疑》专明爻象	(531)
(二十) 侯果易注偏以象数为主	(532)
(二十一) 崔憬《周易探元》兼及象数	(533)
(二十二) 陆希声《易传》重实用	(534)
(二十三) 李淳风《周易元义》宗主京房	(536)
(二十四) 唐僧一行《易纂》宗主孟京	(538)
(二十五) 李翱妙悟八卦之理	(539)
(二十六) 张氏、毕氏皆研筮法	(539)
(二十七) 易图之先声	(540)
(二十八) 其他易注	(541)

(二十九) 隋唐五代易学源流结论	(542)
------------------------	-------

下 册

十、宋代之易学	(543)
(一) 易二派六宗至宋始备	(543)
(二) 宋之易学别传	(548)
(三) 宋代君王重视易学	(548)
(四) 民间讲《易》之风颇盛	(551)
(五) 《易》为课试之科目	(552)
(六) 宋儒以《易》为文者	(553)
(七) 易诗源流	(558)
(八) 易学之讨论	(559)
(九) 宋代所保存之易学	(562)
(十) 宋代图书象数派之易学	(569)
(十一) 宋代易学之主流——理学派之易学	(595)
(十二) 老庄心佛派之易学	(624)
(十三) 占筮机祥派之易学	(629)
(十四) 史学派之易学	(637)
(十五) 疑古派之易学	(638)
(十六) 《古易》之复原与训释——古本易学派	(640)
(十七) 集解派之易学	(649)
(十八) 其他论述	(654)
(十九) 宋代易学源流结论	(669)
十一、元代之易学	(670)
(一) 辽、西夏与金之易学	(671)
(二) 元代重视易学	(672)
(三) 元代以程朱易学为主流	(674)
(四) 元代象数之学	(675)
(五) 老庄、古易、机祥、史学、图象之学	(675)

(六) 易学之诗文	(677)
(七) 元代易学书目	(679)
(八) 元代理学派之易学	(680)
(九) 图书象数派之易学	(704)
(十) 集解派之易学	(712)
(十一) 其他述著	(718)
十二、明代之易学	(725)
(一) 明代君臣甚重视易学	(725)
(二) 明代易学以程朱为主流	(729)
(三) 程朱派之易学	(731)
(四) 其他以理学释《易》者	(751)
(五) 图书象数派之易学	(764)
(六) 史学派之易学	(782)
(七) 古易派之易学	(787)
(八) 佛老与心性派之易学	(795)
(九) 集解派之易学	(804)
(十) 声韵与考据派之易学	(808)
(十一) 占筮派之易学	(812)
(十二) 疑古派之易学	(815)
(十三) 其他述作	(817)
(十四) 以《易》为诗文者	(835)
(十五) 明代易学书目	(840)
(十六) 结论	(845)
十三、清代之易学源流	(846)
(一) 清代皇室与易学	(846)
(二) 程朱派之易学	(851)
(三) 其他理学派与义理派之易学	(863)
(四) 象数派之易学	(875)
(五) 清代图书之学	(911)

(六) 疑古派之易学	(912)
(七) 考据音韵派之易学	(913)
(八) 佛老心性派之易学	(920)
(九) 占筮派之易学	(921)
(十) 史学派之易学	(923)
(十一) 集解派之易学	(924)
(十二) 辑佚派之易学	(926)
(十三) 其他述著	(930)
(十四) 《周易》条例之撰述	(939)
(十五) 《清史·艺文志》所著录之易学	(941)
(十六) 清代民初之易文	(948)
十四、易学别传	(982)

一、易学源流导论

(一)《易经》与宇宙之形成说

茫茫往古，继继来今；上下千亿万年，兴废百京兆事。浩浩天地，渺渺星云；空间广大无边，世界众多无量。试观吾人所生存之宇宙，究竟由何组成？其构成之因素，究竟有多少？而吾人所存在的世界，林林总总的万事万物，纷纷扰扰之人间万态，究竟谁为之纲维？谁为之主张？此实宇宙人生之最大问题也。一切学术文化之产生，哲学宗教之创立，莫不于此探讨研究。在吾国则在公元纪元前四五千年之伏羲氏，与公元纪元前一千一百多年之周文王，已有一套完整之易学理论以说明之。在西洋哲学则发源于希腊，在纪元前五百多年始有泰利斯（Thales）设定一切万物由水而生。而安纳西美尼斯（Anaximenes）则以为构成宇宙人生的原质（arche；英文 Elements）是空气。以吾人之心灵，乃由空气支持，空气笼罩全世界。赫拉克利塔斯（Herakleitos）以为一切事物由火产生。产生一切而不停止的原质为“原火”。毕达哥拉斯（Pythagoras）以为一切从数而成，数为一切存在物之原理。德谟克利特斯（Demokrrtos），在纪元前三百多年前，以为事物由于许多的原子（Atomon）成立，事物之生成消灭皆由原子之运动。恩柏多克利斯（Empedokles）以为一切物由“水、火、空气、地”四种原质而生。四者乃万物之根。世界事物之生与灭，由于此四种原质（元素）之混合与离散。此与印度哲学之以“地、水、火、风”四大因素，构成宇宙人生之理论相同。空气之流动，即成风。故二者实相同者也。佛教尝借此四大因素，以说明“空”之哲理。故有“四大皆空”之说。盖万物之生成由此地水火风组成，其毁也亦散归四大。